「(三)自主自由でありたい。他人の拘束は受けたくない。故に独立自主を求めんとする。」

これも人類の根ぶかい願いであります。自分のおもっていることをしたいとは誰でもが願っている。「しかし致し方ない、人に使われているのだから、メシの為にがまんしょう」甚だしきは生命までも金に買われるようなおもいすらすることがあります。ですからあくまでも自分が主人公で、自分の思う通りやりたいというのが正直な気持なのです。

さあ自由は如何にすれば得られるでありましょうか。「私はどうしようもないのです。サラリーマンです。月給と離れたら水を失った魚同然、生きて行かれないのです。一生こうして人に使われて行かねばならないのです。加えて私には学歴もありません。若い学問のある人はどしどし出世しますが、私共はちっとも出世出来ません」。こんなことを言ってあきらめている人も多いようです。

しかしこれは考え直す必要があります。我々は如何な位置におかれても自主自由であり得る。誰からも拘束を受けない立場に立つことが出来るのであります。皆さんは必ず自主自由の特権を得ることが出来ます。

「(四)犯罪、闘争、紊乱のない平和と安寧と秩序ある所に住みたい。故に理想社会を求めんとする。」

ただ犯罪、闘争、紊乱の無いというだけでは、生活に適するところというのも、自然この中に入って参ります。例へば気候が良いとか、便利がよい、景色がいいということも加わって来る。とにかく住みよいところに住みたい。不安定(心)なところには住みたくないです。これは生活をする上での絶対的な条件であります。ですから安定した調和された美わしい理想的社会生活を求めるのであります。

右の四つが根本で究竟目的になるのであります。即ち「死なない生命をみつける。あらゆる不安から解除された生活をきづきあげたい。何時如何なるときがあろうとも自主自由でありたい。」此の願いはすべて叶へられるのであります。正しい日蓮仏教の信仰をして行けば自然に成就されて参ります。私は必ず成就される秘術を発見したのであります。此の秘術にしたがえば絶対、まちがいなく人生の究竟目的は実現されるのであります。

私はこう考えております。「金」のことに例をとりますと、入って来る「金」を先ず世の為、人の為、寺の為に使う。即ち私の秘術にしたがへば実にとてつもなく「金」が入って来るのです。その「金」の使い方を正しくする、しないでその「金」が本当に生きた金になるか、死に金になるかが決って参りますので、私はとにかく、あらゆる人の幸福の為に「金」を使いたいという信念をつらぬいております。そうすると不思議な程、後から後から金が入って来るのです。「金」は使うところに価値があるのですから、正しく生きたのとして使うようにしなければなりません。私には私に秘術を教へて下さる偉大な方、寿量本仏がついてくれます。「金」の入る道も、又その「金」を使う方法もすべて教えて下さるのであります。此の秘術をみさんが得とくされればもう此の世の中に恐いもの、嫌なものは一切無くなってしまい、思うところ可ならざるはなしという自由自在という境地に入れるのであります。

以下、次号に続く